

No. 1257

北国の雪まつり

みちのくの秀峰、岩手山。その山麓に80年の伝統を持つ牧場がある。牧場はいま、きびしい冬の中にある。牛たちが短い冬の日ざしの中に遊ぶ。毎年2月になるとこの牧場では恒例の雪まつりが開れる。冬の間、娯楽の少ない北国の人々にとってはいちばん楽しい時である。今年の雪まつりは、雪像、かまくらをはじめ沢山の企画が盛り込まれ近年になく盛大に開れた。スーパーカー前のお祭り広場で家族づれがソリ遊びに興じる。氷の舞台ではこの地方に伝わる郷土芸能“鹿踊り”が行われた。この踊りはその昔空也上人が鞍馬山で射殺された鹿をあわれに思い村人を集めて供養したのがはじまりだという。この見事な舞いが雪まつりに花をそえる。かまくらの中で食べるジンギスカン料理、味はまた格別なもの。スタミナがつくばかりでなく健康にもよいとあって、なかなかの人気。北国の人々はこうして遠い春を待つのである。

空からの流氷観測

—北海道—

冬のおホーック海沿岸を覆う流氷群。青森県、八戸市にある海上自衛隊の航空基地。この基地では毎年、気象庁からの依頼を受け、流氷観測を行っている。この観測は昭和34年冬から始まり、以後一度も休むことなく続けられ、今年で22回目。観測は第2航空群が担当し、使用する飛行機は対潜しよう戒機。今年の冬に入ってから飛行は7回目を迎える。

北の海は厳寒の中にあつた。おホーックの海は沖まで美しい白いじゅうたんで覆われていた。しかし、急速に移動してきた流氷群のために昭和45年3月、漁船6隻が破壊され、死者、行方不明合わせて30名という大事故が発生したことはまだ記憶に新しい。こうした事故を未然に防ぐため、集められた資料は札幌気象台と函館海洋気象台に送られて、貴重な情報となる。

機長の話によるとことしの流氷は昨年より少ないという。それでもまだ2ヶ月も先にある春を待ち望む漁民の声が聞えてくるようだ。